

平成 25 年度カキ養殖概況

石黒貴裕*・村山史康

養殖規模 平成 25 年度のマガキの漁業協同組合別養殖規模、生産量などを表 1 に示した。25 年度の経営体数は前年度から 5 減少し、155 であった。筏台数は 1,993 台で、前年度から 6 台増加した。なお、一部漁協では個人出荷のため生産量が把握できなかった。

養殖用種苗 25 年度の生産に使用されたコレクター総数は推定 30,223 千枚で、広島が 3 割、地種が 7 割であった。

養殖経過 25 年度の牛窓沖海水温と平年値との差を図 1 に示した。7 月は平年値を 2℃上回ったが、以降は平年値との差は概ね 1℃以内であった。クロロフィル a 量の全漁場平均値は抑制期(4~9 月)では 6.3µg/L で、平年値の 5.1µg/L より 1.2µg/L 高かった。また、養成期(10 月~翌 3 月)では 3.2µg/L と、平年値の 3.0µg/L と比べるとやや高めで推移した。

生産は、平年と同時期の 10 月下旬~11 月上旬にかけて開始された。生産当初から身入りが良く、卵持ちやへい死は少なかった。日生町漁協では、11 月末に季節風の影響で落下したマガキが多かったため、例年よりも 1 週間程度早く生産が終了した。寄島町漁協、笠岡市漁協ではフジツボの付着が多く見られた。カキ出荷期間中に

県、県漁連及び漁協が実施したノロウイルス検査では、陽性率は 1%未満であった。

生産結果 むき身生産量は邑久町漁協、牛窓町漁協で前年度を上回ったが、そのほかの漁協では下回った。全体では 4,076t となり前年度比は 100.2%であった。

その他 県内採苗は 7~8 月から行われたが、天候不順、台風の影響により 9 月末まで長引いた。また邑久町漁協では地種を予定数確保できず、一部広島県産の種を導入した(全体の 5%程度)。

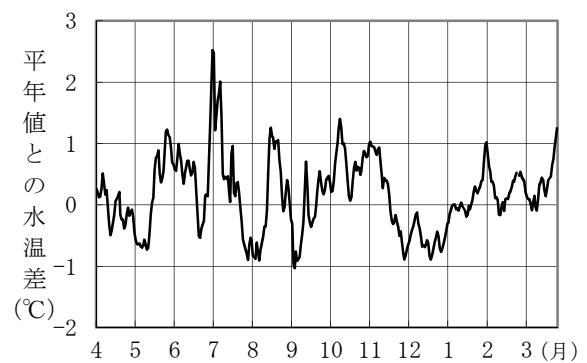


図 1 平成 25 年度の牛窓沖海水温における平年差の推移
平年値は 1981~2010 年の平均

表 1 マガキ養殖状況(平成25年度)

| 漁協名 | 経営体数 | 筏台数 | 沖出し時期 (月日) | 生産時期 (月日) | むき身 生産量(t) | 生産量 対前年度比(%) |
|-----|------|-------|---------------|--------------|---------------|-----------------|
| 日生町 | 51 | 502 | 9/25 - 10/3 | 10/31 - 3/22 | 1,869 | 86.8 |
| 伊里 | 6 | 47 | 10/14 - 10/15 | 11/4 - 2/28 | 26 | 75.5 |
| 邑久町 | 71 | 1,243 | 9/26 - 10/20 | 10/31 - 5/3 | 1,849 | 117.4 |
| 牛窓町 | 6 | 116 | 9/28 - 10/1 | 10/31 - 3/20 | 211 | 119.6 |
| 寄島町 | 16 | 70 | 10/12 - 10/20 | 11/1 - 4/24 | 121 | 93.9 |
| 笠岡市 | 5 | 16 | - | - | - | - |
| 合計 | 155 | 1,994 | 9/25 - 10/20 | 10/31 - 5/3 | 4,076 | 100.2 |

*現所属 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及連携課